



公益財団法人 民際センター
2018 年度 活動報告書

2018 年 4 月 1 日 ～ 2019 年 3 月 31 日

目次

基礎教育奨学金事業	3
高校教育奨学金事業	4
特別教育奨学金事業／学校施設整備事業	5
書籍普及事業	6
学校教材支援事業／生徒教材支援事業	7
自転車支援事業／少数民族教師養成事業	8
自然災害支援事業	9
調査研究事業／研修視察事業	10
民際力推進事業／その他の募金活動等について	11
総収入と総支出	12
わたしたちのポリシー	13

～はじめに～

1987年の設立以来、民際センターは今年で32年目を迎えました。設立から一貫して教育支援活動を実施してまいり、メコン地域5か国の貧しい家庭の子どもたちへの奨学金提供数は、2019年3月現在、延べ約400,700人の小・中・高等学校就学を実現しています。各国別では、タイの小・中・高校合わせて280,000人、ラオスの小・中学校合わせて100,000人、カンボジアでは、小・中学校合わせて20,000人、ベトナムの中学校で3,500人、ミャンマーの中学校で3,500人（いずれも延べ約・人／2017年現在）となります。それでは、この32年間にご支援頂いた皆様の人数はどうでしょうか。ご支援者の総数は、約37,000名（2019年3月現在）もの方にご支援を頂きました。

民際センターを含めEDFグループは、これらの方々に支えられてその活動を行うことが出来ています。

本書では、2018年度の民際センターの活動報告として、詳細を皆様にお伝えしたいと思います。

2019年度以降も皆様のご支援がある限り、今後も変わることなく今の活動を確実に実行できるよう最善の努力をしていきたいと思ひます。

本書をおかりして御礼申し上げますと共に、今後も変わらぬご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 民際センター
事務局長 南谷 勝典

基礎教育奨学金事業

対象国：ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー、ベトナム

事業内容：中学生への奨学金支援（*ラオスでは、一部小学校支援あり）

民際センターにおいて、ダルニー奨学金と命名されている、メコン地域 5 か国の中学生に対しての奨学金支援事業です。本年度においても、持続可能な開発目標（SDGs）の質の高い教育（High quality education）の目標に沿って、ラオス、カンボジアの小学校支援から、中学校支援に路線を変え、奨学金の提供を継続実施しました。

＜年度別 各国の奨学生数＞

会計年度	タイ	ラオス	カンボジア	ベトナム	ミャンマー	合計
2013 年度	4,061	4,316	1,428	109	166	10,080
2014 年度	3,048	3,951	1,382	251	277	8,909
2015 年度	2,477	3,738	1,277	364	441	8,297
2016 年度	2,246	2,978	1,353	405	602	7,584
2017 年度	2,182	2,970	1,469	502	636	7,759
2018 年度	2,280	2,732	1,496	717	676	7,901

2013 年度をピークに 5 か国の奨学金の合計数が減少傾向にあったが、2017 年度に増加に反転し、2018 年度も 2017 年度を上回る実績を残すことが出来ました。2017 年度より本年度で事務局新体制 2 年目を迎え、目標管理のマネージメント強化と、オンラインを活用したファンドレイジングの強化に成果があらわれた結果と判断しています。タイの奨学金総数についても、昨年まで減少傾向にあったものが、3 月締めまでの強力な募金活動により、目ざましい経済発展に伴い、その一方で実態としては、貧富の差が激しく地方の農村部では、依然として貧困による教育機会の損失があるという現状を訴求させて頂き、減少傾向から増加に反転させることが出来ました。カンボジアは微増、ミャンマーに関しても順調に増加しています。ベトナムは大きく数字を伸ばす結果となりました。ラオスに関しては、2018 年度において唯一、昨年の奨学金総数を下回る結果となり、2019 年度の課題として取り組む予定です。



また、上記奨学金数には、通常の募金活動に加えて、書き損じはがきの収集、2018 年 11 月より開始した Syncable/ブランディアの提携による Brand Pledge とダルニー奨学金のコラボレーションによって、ブランド品買取を奨学金化するプロジェクト及び（公財）パブリックリソース財団が運営する Give One オンライン寄付サイトとの連携による奨学金提供数も含まれています。

書き損じはがき：現金化後の 2018 年度収益は、5,268,056 円となり SNS やメールの普及の影響で毎年減少傾向にあります。（2017 年度収益 6,622,152 円）

Brand Pledge（ブランド品で奨学金）：ブランディアに対してのブランド品買取依頼による寄付者数は 31 名、奨学金口数 6 口となっています。

収入：112,801,650 円

支出：109,447,313 円

高校教育奨学金事業

対象国：タイ、ラオス、カンボジア

事業内容：高校生への奨学金支援

中学校の支援の延長として、奨学金支援者の希望により、対象奨学生の高校進学希望を確認してから実施している、従来の高校生への奨学金支援、タイ 24 口、ラオス 3 口、カンボジア 4 口に加え、ダルニー奨学金により中学校を卒業した子どもたちが、自分たちで貧困から脱却できるように職業教育の奨学金支援（職業訓練校への就学支援）を開始しました。社会の高度化により、就職にあたって求められる知識や技術も高度化しつつあります。中学校を卒業した段階でそのような知識や技術を持ち合わせているはずもなく、中学校卒業後の進路選択の際に、選択肢が狭まってしまいます。職業訓練校への奨学金支援で、この状況の解決を目指します。中学校卒業後の進路として、普通科高校もしくは職業訓練校へ進む道があり、早く社会に出て働けるように、中学校卒業後の職業訓練校への奨学金支援を決めました。本年度は、タイのウドンタニ県において、パイロットプロジェクトとして奨学金提供を開始し、職業訓練校奨学金 18 口を実施しました。

収入：1,380,000 円

支出：1,453,476 円

ウドンタニ県 職業訓練校 写真



特別教育奨学金事業

対象国 : タイ

2010 年から開始した受託事業で、本年度は 14 名の大学卒業生と 43 名の学部学生、1 名の修士学生への奨学金を提供するなど、バンコク・チェンマイでの大学生を対象とした特別奨学金事業の事業運営を実施しました。2020 年をもって終了予定。

収入 : 4,518,546 円

支出 : 5,928,819 円

学校施設整備事業

A) 中学校教室建設事業

対象国 : ラオス

事業内容 : 教室建設事業

小学校を卒業した子どもたちは、中学校に進学して、勉強を続けたいと切に願っています。

経済的理由で進学できない子どももいますが、その他の理由として、次の 3 つがあげられます。

- (1) ラオス国内で中学校が不足しており、通学範囲内に中学校がない
- (2) 中学校教師が不足している
- (3) 地域に中学校教育が根付いていない

この 3 つの課題を解決するために、中学校に校舎 1 棟を建設するのではなく、小学校内に中学校 1 年生用の教室を建設するという新しい方法を普及させるのがこの事業です。教室建設事業で建設するのは、ラオス政府仕様のものとなっています。本年度は 1 教室の建設を実施しました。

B) 女子寮建設事業

対象国 : カンボジア

事業内容 : 女子寮建設事業

中学高校の数の不足により、家から中学校や高校への距離が大変遠く、長時間の通学や治安の悪さから高校就学をあきらめる生徒が少なくありません。男子生徒であれば、近くにあるお寺に住まわせてもらうこともできますが、お寺は女人禁制、女子生徒の場合、そうはいきません。そのような状況でも、学校に通いたい、勉強を続けたいと、女の子たちは学校の近くに掘っ立て小屋をつくって暮らします。そこは、施錠できず、雨風も入ってきます。さらに、貧困のため朝食をとらず、食事は昼と夜の 2 回のみ。持参コンロを持ち出して外で料理し、夜は昼の残り物を食べています。トイレもシャワー兼用の 1 つだけ。それを約 60 人の生徒が使用していて、乾季には水が無くなってしまう時もあります。カンボジアの夜の一人歩きは危険なので、遠く離れている場所にトイレが設置されているエリアでは夜間は使えないこともあります。こうした状況が、女の子の就学の大きな障害になっています。女子寮建設事業は、このような女子の遠方通学、安全性等を鑑み学校の敷地内に女子寮を建

設することで、女子生徒が安心して勉強を続けられるようにサポートする事業です。本年度は、5 棟の女子寮を建設しました。

両事業ともハード建設ですが、持続可能な質の高いソフト面での教育支援の一環といえます。

収入：25,213,645 円

支出：17,721,074 円



書籍普及事業

対象国：ラオス、カンボジア

事業内容：本が不足する学校に図書セットを提供する事業。ラオスでは木箱に入った図書セットを 94 の学校に提供、カンボジアでは 32 の学校に図書セットを提供しました。

ラオス事務局・カンボジア事務局が学校側の要望を聞き、図書を必要としている学校に届けています。

学校に合わせて本を選定して、小学校または中学校に配布を実施しています。

収入：4,480,000 円

支出：4,512,883 円



学校教材支援事業

対象国： タイ、ラオス

事業内容： タイやラオスの農村部の学校では、基本的な教材やスポーツ用具が不足しています。

そのため、先生は学習の楽しさを伝える授業づくりが難しく、学ぶ楽しさを十分に感じられずに授業を受けている子どもたちもいます。「学ぶ楽しさを知ってほしい」というのを目的に、学校教育に必要な教材やスポーツ用具を学校に提供するプロジェクトです。子どもたちの教育に有用なものや日用品は、現地で日常的によく使われる物を現地事務所のスタッフが選んでいます。皆で使い楽しめるようにスポーツ用具セットや図書セットを用意しました。教材セットは、鉛筆やボールペンの本数を多くするようにして、皆で楽しめる工夫をしています。

調達から発送まですべて対象国内手配のため、物価の安いタイ・ラオス国内で購入して送る方がより多くの物を提供することができます。各学校の予算は、人件費も含め生徒数によって決まるので、対象地域である郡部の生徒数の少ない学校では、非常に有効な事業です。

本年度は、ラオスに 79 セット、タイに 7 セットを支援しました。

収入：1,829,000 円

支出：1,821,263 円



生徒教材支援事業

対象国： タイ、ラオス

事業内容： プレゼントを贈ることで、現在支援を受けているタイ・ラオスの奨学生をさらに応援しようというプロジェクトです。奨学金に加えて消耗品の文具などを贈る事業で、奨学生との交流が深まることで持続的な支援が行われ、その結果、進級や卒業の確率が高まることが期待されます。ラオスに73セット、タイに70セットの支援を実施しました。

収入：1,184,000 円

支出：1,145,667 円

自転車支援事業

対象国：ラオス、カンボジア

事業内容：農村地域での大部分の子どもたちにとって、自転車を持つことは、将来への希望を意味します。多くの子どもたちが自宅から遠く離れる学校へ徒歩で通っています。強い日差しの下、自宅から遠く離れた学校へ徒歩で通う生徒の中には、勉強に集中できない子や、通学を諦めてしまう子どもたちもいます。貧困や通学距離の遠さは、教育を享受するには大きな障害となっていて、中途退学を生む原因の一つとなっています。自転車を保有することで通学への利便性が高くなることは、就学率を上げ中途退学率の低下を可能にする力を秘めています。自転車は単なる自転車ではなく、子供達の希望と教育機会の提供を意味し、貧困からの脱出につながるとも大切なものと言えます。本年度は、ラオスに 99 台、カンボジアに 63 台を支援しました。

収入：3,114,000円

支出：2,299,849円



少数民族教師養成事業

対象国：ラオス

事業内容：人口約686万人（2017年 国連推計）の内、ラオ民族が53.2%で残りの46.8%が50の少数民族です。少数民族はそれぞれ母語を持ち、ラオス語しか話せない教員、ラオス語の教科書では、教育の質の向上が難しいため、高卒の少数民族で教師志望者に教師養成短大の奨学金を支援し、母語で教育できる教師の育成が本事業の目的となっています。卒業生は出身村の学校で教えることになるため、独自の言語を持つ少数民族が住む地域での教育の質の向上が見込まれます。本年度は、卒業予定者28名、新入生7名、2年生22名の計57口の奨学金を支援しました。

収入：8,899,771円

支出：9,032,599円

自然災害支援事業

対象国：ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー、ベトナム

事業内容：大地震や津波、洪水等の自然災害が生じた際、被災地の学校や子どもが必要な救援物資を迅速に送り届けるための支援である緊急支援、復興支援、そして復興過程に必要なお見舞い支援体制を構築するプロジェクトで、現地 NGO が持つ学校、村とのリレーションによる迅速な支援と位置付けています。

（前期 2017 年度繰越金 113,000 円）

対象国：ラオス

2018 年 7 月に起きたラオス南部アッタプー県サナムサイ郡でのダムの決壊による洪水災害に対し、緊急募金活動を実施し 387,000 円を緊急支援金として、ラオス事務局を通じて支援しました。

ラオス事業所のスタッフは被災地へ赴き、マットや靴、タオル、歯みがきなどのアメニティ、シン（ラオス女性の民族衣装である腰巻スカート、正式な場面や仕事で着用される非常に重要なもの）など多くの支援物資を運びました。また、救援物資の他、物資を運搬したトラックレンタル費用、ガソリン代にも充てさせて頂きました。



土砂で埋まった村



被災地の子どもたち



救援テントの様子



ラオス事業所のスタッフ



避難所の様子

収入：500,000 円

支出：387,000 円

調査研究事業

対象国：タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム、ミャンマー、日本

事業内容：新規事業としての実施可能性を探るパイロット事業の調査研究及び重要度・緊急度の高いプロジェクトに充当しました。

収入：350,000 円

支出：577,347 円

研修視察事業

対象国：タイ、ラオス、カンボジア

事業内容：支援者様を対象に、現地の支援地域を訪問したり、奨学金贈呈式等に参加することにより相互理解の促進を図ることを目的とした、研修視察プログラムになります。本年度は、企業で2社、法人・団体が4法人、学生団体は2団体・2校が研修視察に参加しました。



収入：4,233,314 円

支出：5,507,330 円

民際力推進事業

対象国 : 日本

事業内容 : 民際センター マンスリーサポート

民際力 マンスリーサポートは民際センターの活動そのものを支援いただく寄付プログラムです。

1 対 1 で子どもたち一人ひとりを直接支援するガルニー奨学金に対して、あらゆる分野の教育的課題を総合的に解決する“面”の支援となります。本年度より、民際センター・サポートプログラムに加え、マンスリーサポーター（月次支援）の募集を開始しました。また、Tポイントによる寄付、Yahoo 募金経由の寄付も本事業として計上させて頂きました。民際センターでは、すべての収入を寄付のみでまかなっており、税金を財源とする国や地方自治体からの補助金は一切受け取っていません。税を財源とする補助金で事業を行うのではなく、皆様のご支援で皆様と一緒に民際センターの活動を行っています。



Tポイント募金



ネット募金

収入 : 5,421,862 円

支出 : 2,812,090 円

その他の募金活動について

イベントへの参加やご協賛、講演会の実施や募金活動等で下記の方々にご協力頂きました。

本書をおかりして、改めて御礼申し上げます。

4 月 : 第 2 回 てとてとつながるチャリティマルシェ（千葉県八千代市）タイの台所チャリティ販売 参加

5 月 : 京都府綾部市立河北中学校 修学旅行での講演

5 月 : 京都府綾部市立東陵中学校 修学旅行での講演

6 月 : 宗沁会（そうしんかい）チャリティお茶会 参加

6 月 : サニーサイドゴスペルクラブ船橋（千葉県船橋市）タイの台所チャリティ販売 参加

7 月 : NGO ゴスペル広場（東京都渋谷区）タイの台所チャリティ販売 参加

8 月 : サニーサイドゴスペルクラブ（埼玉県川越市）参加

8 月 : ヤマハゴスペル杉本組（千葉県君津市）参加

9 月 : サニーサイドゴスペルクラブ町田（東京都町田市）参加

11 月 : 立命館宇治高校（京都市宇治）講演

2 月 : MS&AD バレンタインチャリティコンサート（千代田区神田）参加

3 月 : ラーソングール日本 JAWA-SHOW（TOKYO 画材ショー）協賛販売

総収入と総支出

2018年4月1日から2019年3月31日まで

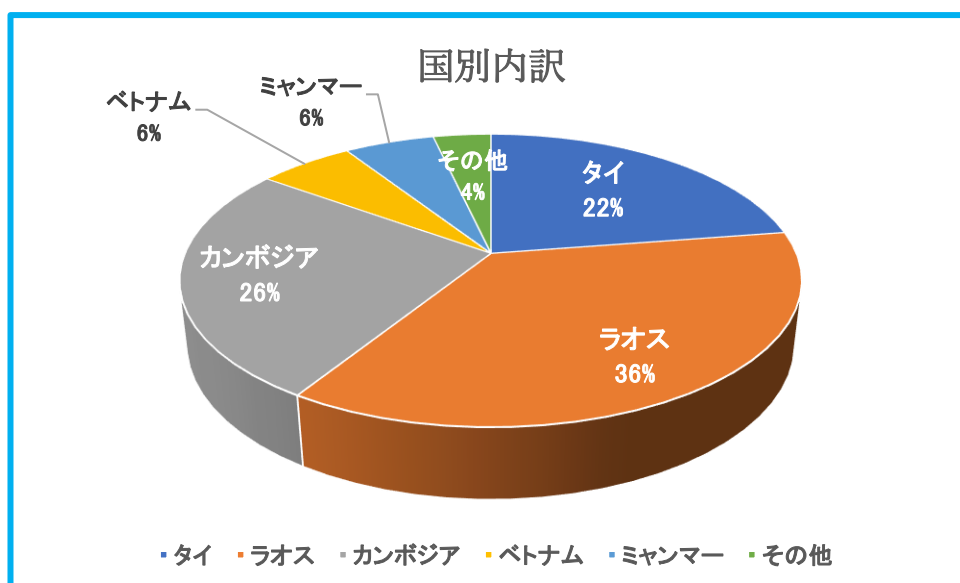
* 経常収益：基本財産運用益、特定資産運用益、事業収益、受取補助金、受取寄付金、雑収益の総合計を総収入とする。

* 経常費用：事業費（海外事業費含む）、管理費の合計を総支出とする。

経常収益（受取寄付・事業収益等）の国別内訳

（単位 1,000 円）

科目	タイ	ラオス	カンボジア	ベトナム	ミャンマー	その他	合計
ダルニー 奨学金	32,832	38,590	21,292	10,324	9,734	0	112,272
プロジェクト 全般	2,031	20,744	24,050	0	0	0	39,714
その他事業	4,547	4,145	0	0	0	6,248	24,165
計	39,410	63,479	45,342	10,324	9,743	6,248	174,573



総収入と総支出

総収入： 174,537,276 円

総支出： 174,288,211 円

わたしたちのポリシー

支援者の皆さまとともに私たちは、経済的に貧しく学校に通えない子どもたちに教育支援をしたいという皆さまの想いを真摯に受けとめ、子どもたちの教育支援を行います。また、支援を受けた子どもたちの想いや成果を、支援者の皆さまに伝えることにより、1 対 1 でつながる顔の見える支援を基本に、支援者の皆さまに支援の手ごたえや喜び、支援する子どもたちと繋がっている実感、ひいては生きがいを感じていただくことに全力を尽くします。

■ 受益者（子どもたち）とともに

私たちは、先進国の目線で途上国を助けるという発想に立脚するのではなく、受益者、すなわち、子どもたちがその国の文化や風土を尊重した教育を受け、自立できる環境をつくることを目指します。政治的・宗教的背景による価値観の押し付けではなく、支援を受ける子どもたちのニーズに即し、彼らが自力で将来を切り開くために必要な教育支援を実施できるよう全力を尽くします。

■ 時代・社会とともに

環境問題や社会問題が顕在化し、時代が大きく変化する中で、私たちは常に新しい国際貢献のあり方を模索していきます。私たちが行っている活動は特別な人による特別なことではないという考えに立ち、広く多くの人に支援の必要性を伝え、理解・共感していただくことを目指します。そして、たくさんの市民の力によって、全ての子どもたちが教育を受けることのできる世界づくりに全力を尽くします。

公益財団法人 民際センター

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-13

山三ビル7F

TEL 03-6457-5782 FAX 03-6457-5783

お問合せメール：info@minsai.org

URL：www.minsai.org

